

PSE 認証

PSE 認証とは、日本国内で販売される電気製品の安全性を確保するために、「電気用品安全法」に基づいて義務付けられている制度です。

目的

電気製品による火災や感電などの事故を防止し、消費者が安全に電気製品を使用できるようにすることを目的としています。

対象製品

テレビ、冷蔵庫、モバイルバッテリーなど、身近な電気用品に表示が義務付けられています。

2018 年の法改正により、モバイルバッテリーは 2019 年 2 月 1 日以降、PSE 認証の規制対象となりました。

電気用品は「特定電気用品」(116 品目) と「特定以外の電気用品」(341 品目) に分類されます。

PSE マークの種類



特定電気用品



特定電気用品以外の電気用品

ひし形 PSE マーク：

特に安全性が求められる「特定電気用品」に表示されます。登録検査機関による厳格な検査が必要です。

丸形 PSE マーク：

「特定以外の電気用品」に表示されます。製造事業者が自主的に安全性を確認し、表示します。

認証の主体

PSE マークは、製造者や輸入事業者が責任を持って表示するものであり、国が許可したり認証したりするものではありません。

日本で販売される電気製品の PSE マークは、海外メーカーではなく日本の輸入事業者が責任を持って表示します。

認証取得の流れ

国への事業届出、技術基準適合確認、自主検査が必要です。

特定電気用品の場合は、登録検査機関による適合性検査を受け、適合証明書を取得する必要があります。

適合性検査は、技術基準への適合性の確認（タイプテスト）と製造工場等の検査設備の確認で構成されます。

罰則

PSE マークのない製品は、製造・輸入・販売ができません。

法律に基づく手続きに従わない場合には罰則が適用されます。

PSE マーク以外の安全性を証明する規格は？

PSE マークは日本国内で電気用品を販売する際に必要な、電気用品安全法（電安法）に基づく安全規格を示すマークです。モバイルバッテリーは 2018 年 2 月 1 日から PSE マークの対象になっており、PSE マークがついていないモバイルバッテリーは国内での販売が禁止されています。

PSE マーク以外にも、電気製品の安全性を証明する国際的な規格として IEC 規格があり、日本の電気用品安全法における技術基準でも IEC 規格が考慮されています。

IEC 規格

IEC (International Electrotechnical Commission) 規格は、電気・電子工学分野の国際標準化機関である国際電気標準会議が定める規格です。日本の電気用品安全法では「別表第一から別表第十一（日本独自の技術基準）」と「別表第十二（国際規格準拠の技術基準）」のいずれかを満たすことで技術基準への適合が認められています。特に、リチウムイオンバッテリーの安全性に関する IEC 規格としては、以下のものが挙げられます：

IEC 62133-2: ポータブル機器用リチウム二次電池の安全性に関する規格です。多くの国でリチウムイオンバッテリー製品の輸出入販売に際して必要とされます。

IEC 62619: 産業用リチウム二次電池の安全性に関する規格です。

これらの国際規格に準拠した試験は、日本の登録検査機関でも実施されています。

その他の日本の安全規格

電気用品安全法以外にも、特定の製品を対象とした法律に基づく安全規格があります。

PSC マーク：消費生活用製品安全法に基づく安全規格で、PSC マークのない特定製品は販売が禁止されています。例えば、乳幼児用ベッド、レーザーポインターなどが対象です。

JIS マーク：日本産業規格 (JIS) に基づいて製品の品質や安全性が評価され、認証された製品に付けられます。

PSE マークは日本の法律で義務付けられているため、モバイルバッテリーを選ぶ際は、まず PSE マークが付いているかを確認することが最も重要です。

PSE 認証がないモバイルバッテリーの危険性は？

PSE 認証がないモバイルバッテリーには、いくつかの危険性があります。

＊ 法規制と安全性の問題

日本国内でモバイルバッテリーを販売するためには、電気用品安全法に基づき PSE マークの表示が義務付けられています。このマークがない製品は、日本の安全基準を満たしていない可能性が高く、販売も違法です。

法的リスクとサポートの欠如

PSE マークのない製品の販売は法律違反となり、販売者には罰金や刑事罰の可能性もあります。また、購入・使用することは違法製品を助長する行為とも言えます。

PSE マークがない製品には、保証やサポートが受けられないというデメリットも存在します。

長期的な信頼性の問題

PSE マークは、製品が設計段階から安全性に配慮され、過充電・過放電防止機能や過熱防止機能などが組み込まれていることを示しています。そのため、PSE マークがない製品は、長期的な使用における信頼性が低い可能性があります。

🔥 発火・爆発の危険性

モバイルバッテリーに搭載されているリチウムイオン電池は、高温や衝撃に弱く、破損や誤った使用方法によって発火や爆発のリスクがあります。PSE マークのない製品は、このような事故のリスクがさらに高まります。

実際に発生している事故

実際、PSE マークのない低品質なモバイルバッテリーが原因で、発火事故が報告されることがあります。国民生活センターにも、PSE マークがついていないモバイルバッテリーに関する相談が寄せられています。

非純正バッテリーの危険性

非純正バッテリーの中には、電気用品安全法の技術基準を満たしていないものもあり、異常発生時に安全装置が作動しないおそれがあります。粗悪な海外製バッテリーが混じっている可能性もあるため、PSE マークのない製品は特に注意が必要です。

⚠ PSE マークがあっても安心とは限らない

PSE マークが表示されていても、間違った使い方をすると発火や爆発につながる可能性はあります。製品に強い衝撃を与えたり、充電中に可燃物を近くに置いたりするなど、不適切な使用は避けるべきです。

正しい使い方と保管方法

安全にモバイルバッテリーを使用するためには、以下の点に注意しましょう。

- 強い衝撃や圧力を加えない。
- 充電中に可燃物を置かない。
- 変形、発熱、異臭などの異常が見られたら使用を中止する。
- 過充電や過放電を避ける。
- 高温になる場所での保管を避ける。